

中津市
不登校・ひきこもり支援
実態調査報告書

2025年



編集・発行

社会福祉法人 中津市社会福祉協議会
特定非営利活動法人 キャリアサポート



中津市 不登校・ひきこもり支援 実態調査報告書

1.はじめに…P.1

2.調査・目的…P.2

2-1目的

2-2対象

2-3期間

3.結果・分析…P.3～P.9

3-1回答者学校種別

3-2回答者職種

3-3-①直近5年以内で不登校状態の生徒に関して相談を受けた割合

3-3-②相談内容種別

3-4学校と外部機関との連携について

3-5不登校状態の生徒等の相談によりつなげた機関やサービスについて

3-6不登校・ひきこもり支援に関して、今後必要な支援について

3-7不登校・ひきこもり支援に関しての課題や悩みについて

3-8外部機関へ期待すること

4.今後の取組み…P.10

5.連携事例 …P.11～P.12

6.まとめ…P.13



1.はじめに

『不登校を選択するしかなかった』

『あの時、どこに話せばよかったです』

『自分は社会に認められていない』

中津市社会福祉協議会は中津市の委託を受け「ひきこもり支援事業かいと」として、NPO法人キャリアサポートはWAM(独立行政法人福祉医療機構)等による助成を受け「育てよう！地域の未来を創る人事業」として、互いに連携しながら不登校・ひきこもり状態の子ども・若者とそのご家庭の支援を行ってきました。

様々な背景と困りを持つ当事者とそのご家庭を支援するためには、1つの機関での支援では行き届かないと痛感しています。また、ひきこもりが長期化することで、社会復帰に向けて時間を要する現状が見えてきました。

こうした地域の状況を鑑み、今年度からWAM(独立行政法人福祉医療機構)の助成を受け、『なかつ子ども若者応援ネットワーク構築準備事業(以下、応援ネット)』に着手し、お悩みコンシェルジュEndne(エンデネ)の布施順子先生(公認心理師)をアドバイザーとしてお迎えし、中津市福祉政策課、中津市教育委員会、中津市スクールソーシャルワーカーを交えて応援ネットを進めてきました。

本調査では、つながる支援の構築を目指し、最初の支援者である学校関係者等に調査を行い、貴重な意見を頂ける報告書となりました。

調査にご協力頂いた皆さんに厚くお礼申し上げるとともに、より一層ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

令和7年3月吉日

社会福祉法人 中津市社会福祉協議会
特定非営利活動法人 キャリアサポート

2.調査・目的

2-1目的:不登校・ひきこもりの最初の支援者である学校関係者に話を聞くことで、途切れない支援の構築を目的として実施。

2-2中津市内の学校関係者にアンケート配布

○公立・私立・通信高校7校 ○公立中学校10校

学校長・教頭・担任・副担任・主幹・学年所属・教育相談・サポーター・事務局・養護教員・臨時講師・教務主任・進路主任・事務・非常勤職員・司書・スクールソーシャルワーカー・その他

2-3期間・方法

令和6年7月～令和6年9月

学校の夏休み期間にあわせて回答できるよう、各学校に夏休み前に訪問し、アンケートを配布。紙回答・ネット回答により、179人のご協力を頂きました。


社会福祉法人中津市社会福祉協議会 NPO 法人キャリアサポート
令和6年7月作成

<https://x.gd/BXFr3n>

中津市 不登校・ひきこもり実態調査

全国的に不登校・ひきこもりの長期化が大きな課題となっています。中津市においても、本人はもちろんのこと、家族、周囲の人々の長期的な支えが必要となっています。中津市ひきこもり支援事業「ひらいど」では、これまでひきこもりの園の中で、不登校を理解してひきこもりとなり、どこに相談すれば良いか分からないという相談を開いてきました。進学や就職等の節目に於いて関係機関と支援のつながりが途切れ、本人も家庭も孤立化していく中で、次の支柱につながるための調査として、ご協力お願い致します。
(QRコードよりGoogleアンケートで回答が可能です。)

※不登校「何らかの心的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」
※ひきこもり「自宅にひきこもって学校や仕事を行かずに、家庭以外との親密な対人関係がない状態が5ヶ月以上続いている状況」

原生家庭歴 ひきこもり・不登校の変遷 引用

1. 勤務しておられる学校についてお答えください。
・中学校 ・公立高校(全日制) ・公立高校(定時制) ・私立高校
・通信制高校 ・その他 ()

2. どのようなお立場で勤務されていますか?
・担任 ・副担任 ・学年主任 ・養護教員 ・教育相談 ・教頭 ・学校長
・その他 ()

3. 不登校状態の生徒について、相談を受けたことがありますか?また、どのような相談を受けたことがありますか?(おむね、直近5年間の状況から回答をお願いします。)
・受けたことがない ・受けたことがある⇒下記個別理由選択(複数可)
□人間関係 □家族関係 □学業について □経済的な事情 □無気力
□その他 ()

4. 学校と外部機関(行政、社協、NPO 法人等)との連携について教えてください。
□連携している □連携したいが、出来ていない □連携は難しい
⇒理由:
5. 不登校の子どもに勧めた機関・サービス等がございましたらお答えください。(複数可)
□教育委員会 □自治体の子ども相談支援機関(こども家庭センター・子育て支援課等) □保健所
□教育支援センター □おおいた子ども・若者総合相談センター □フリースクール
□市町村社会福祉協議会 □児童相談所 □医療機関 □親の会 □NPO 法人
□大分県こころとからだの相談支援センター
□その他機関係欄

6. 不登校・ひきこもり支援に関する、今後必要だと思う支援を教えてください。(複数可)
□居場所・フリースペース □家庭訪問 □生徒居住場所の相談支援機関につなげる
□スクールソーシャルワーカー相談 □スクールカウンセラー相談 □スクールロイヤー相談
□学校で外部機関をいたわるアプローチ □分からない
□その他支援

7. 不登校・ひきこもりに関して、問題と思われていること、悩んでいることがありますか?
答えください。(例:外部との協力が難しい。家庭にどこまで踏み込んでいいかわからない。等)

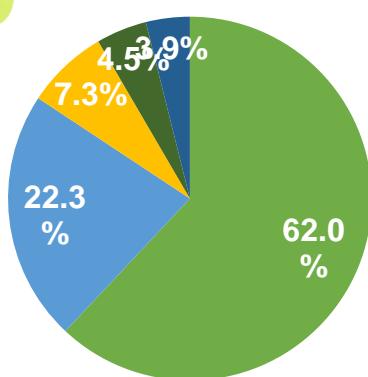
8. 外部の相談機関等に対して、要望することがあれば教えてください

ご協力ありがとうございました。
回答につきましては、QRコードでのインターネット回答もしくは回収封筒にて返送をお願いします。
結果については別途とりまとめ、報告させていただきます。
(8月31日回答締め切り日 回答回収9月上旬)



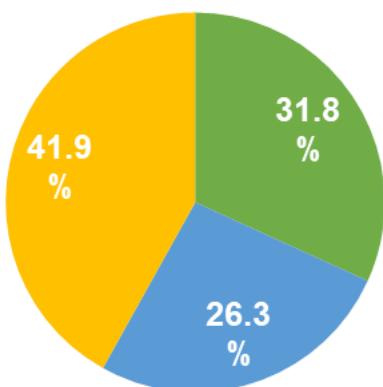
3.結果・分析

3-1回答者の学校種別(回答数179件)

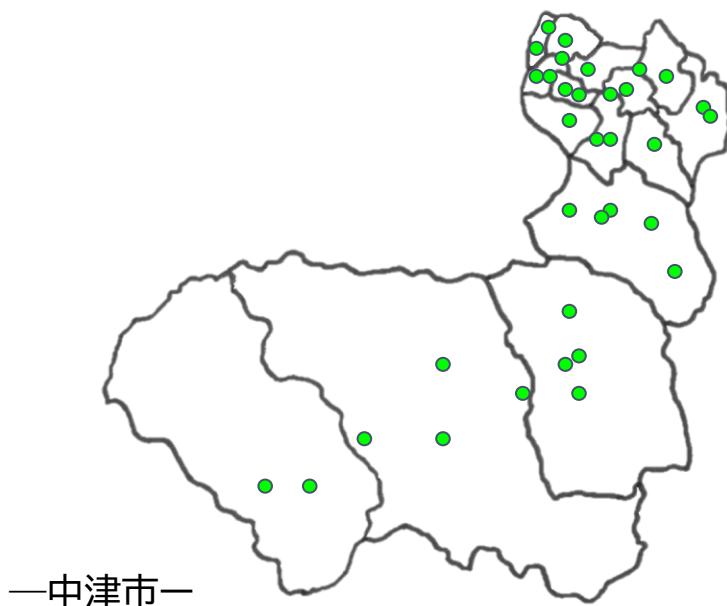


62%…公立高校(全日制)
22.3%…私立高校
7.3%…中学校
4.5%…公立高校(定時制)
3.9%…通信制高校

3-2.回答者の職種(回答数179件)

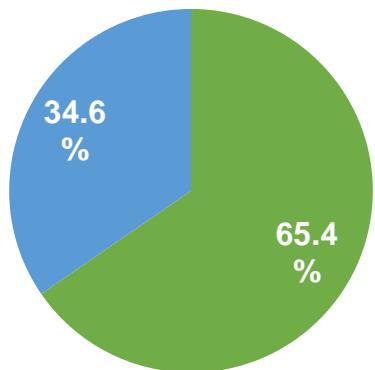


31.8%…クラス担任
26.3%…クラス副担任
41.9%…その他
(学校長・教頭・養護教員・学年主任・養護教員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなど)



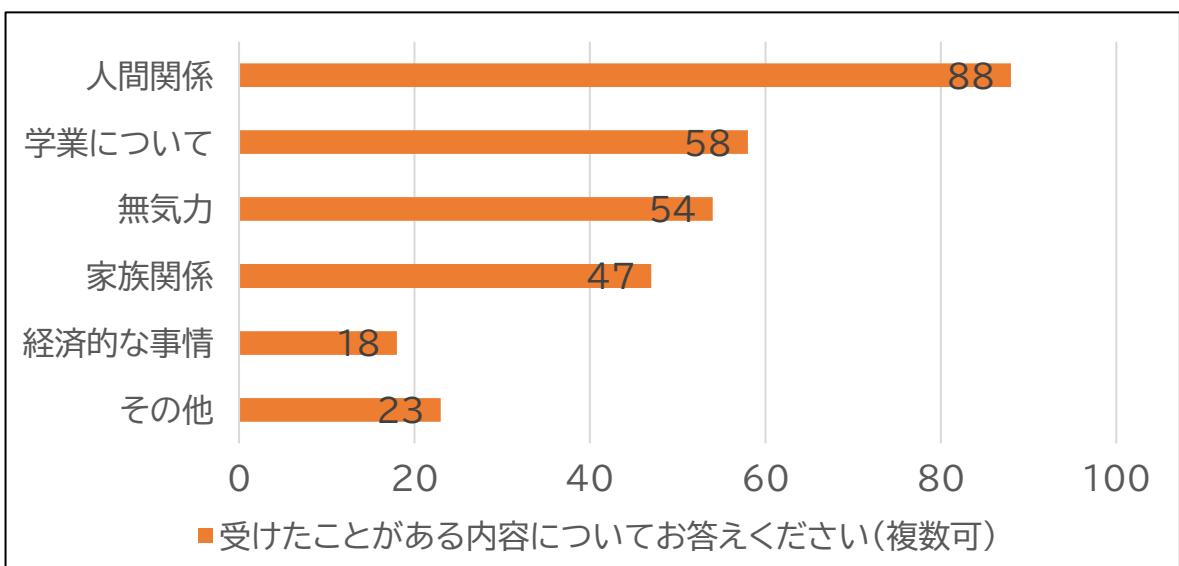
中津市内の学校数
◎小学校21校
◎中学校10校
◎高校5校

3-3-①.直近5年以内で不登校状態の生徒に関して相談を受けた割合(回答数179件)



65.4%…受けたことがある
34.6%…受けたことがない
全体の約6割が相談を受けたことがある状況となっており、その中でも中学校では約9割の相談を受けているのに対し、高校では約6割となっています。

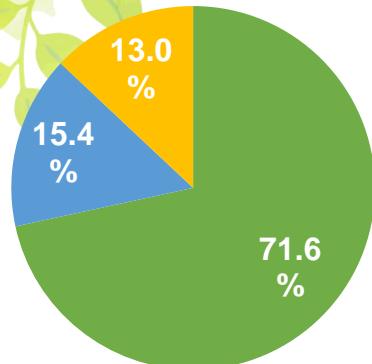
3-3-②.相談された内容種別(回答数122件)



その他…就労相談・進路相談・身体的精神的不安・障がい(発達障害、うつ)・生活習慣について

相談された内容の多くが、人間関係の相談であり、次に学業となっています。学業については、中学校の方が多く、高校になると家族関係や無気力、その他となっています。相談内容が複雑化・複合化している状況もみられます。

3-4.学校と外部機関との連携について(回答数162件)



71.6%…連携している
15.4%…連携したい
13.0%…連携は困難である
高校では、外部との連携が困難だと感じている方が約4割となっている。

『連携している』と回答を頂いたなかでは、学校内だけでは解決できない事案が増えていることもあり、外部の専門家につなぐことで多角的な視点を持ってケースを検討することができるところで、連携に前向きな回答が多い傾向となっています。

一方、「この場合はどこにどう相談すればよいかわからない」など支援機関の情報が行き届いていない現状もみられました。また、個人情報をどこまで開示できるのか？本人やご家族との関係性にも課題が見られ、連携が困難となっている理由となっています。

【連携している理由】

- ◎学校内部の専門職によって、複雑化しているケース検討を行っている。
 - ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを通して、情報の共有や連携はおこなっている。
 - ・専門職がはいることで、多角的な視点をもてることが出来る。
- ◎学校内部で解決できることもあるが、経済的な事情や家庭面の支援については、学校だけでの対応で解決に至らない。
 - ・学校内部の課題(人間関係・本人の能力や特性)だけで解決しないケースが増加しており、その課題には家族関係や経済面などの環境因子が関わっていることもあり、連携は必要になって来ている。
- ◎在籍中であれば、情報連携ができるが、生徒が在籍しているという中での関係となる。
 - ・外部機関として、公的な行政等の連携はすすめられている。
 - ・第三者の俯瞰的な立場の方は必要であり、学校内部の連携はできている。

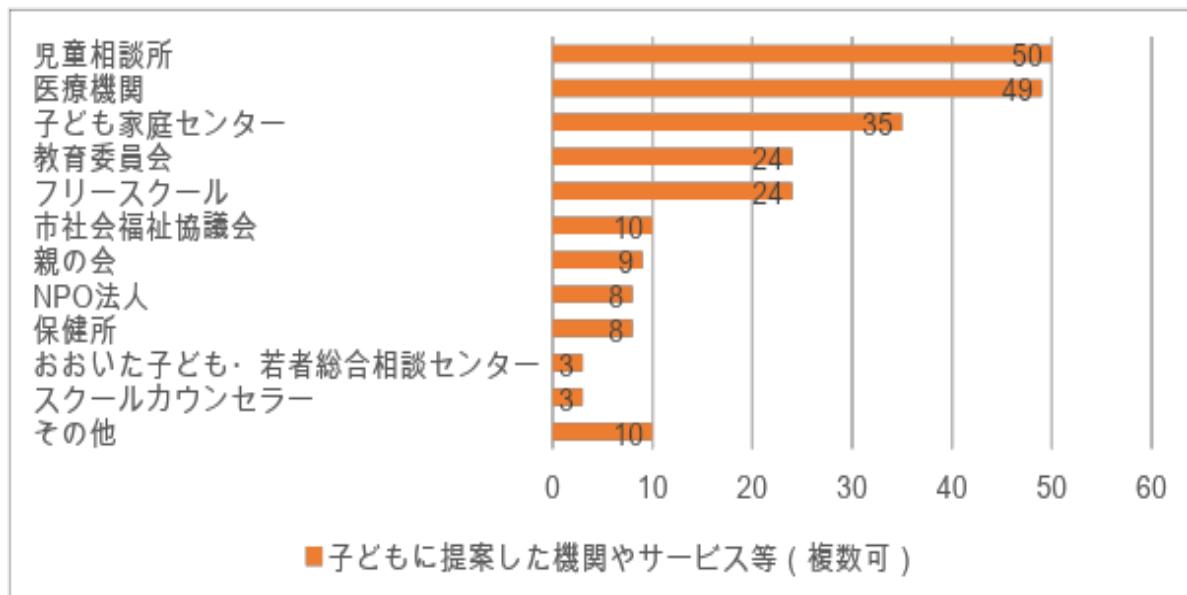
【連携したいができない理由】

- ◎学校と外部機関がつながりにくい状態である。
 - ・相談体制が出来ているようで、どのようにつながっているか分からぬ。相談先の状況がわかりにくい状態となっている。
- ◎それぞれの機能には限界があり、役割が不明瞭なことでつながりにくい
 - ・対応できる範疇を超えることで、お互いが疲弊してしまう。

【連携は難しい理由】

- ◎多様な選択肢(経験)を用意できる環境も必要になっている
 - ・学校内での関係性と学校外での関係性の見直しは必要だが進んでいない。
- ◎安心できる環境として、つながりが途切れない関係性が必要
 - ・本人との関係性や家族との関係性、外部の関係性が整理できずに進んでしまう。

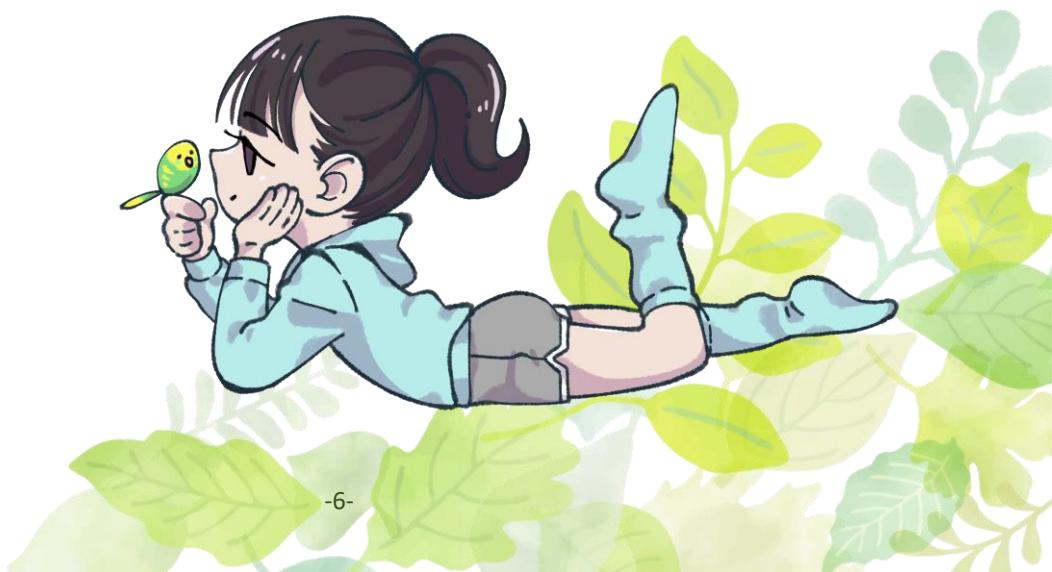
3-5.不登校状態の生徒等の相談により、つなげた機関やサービスについて(回答数113件)



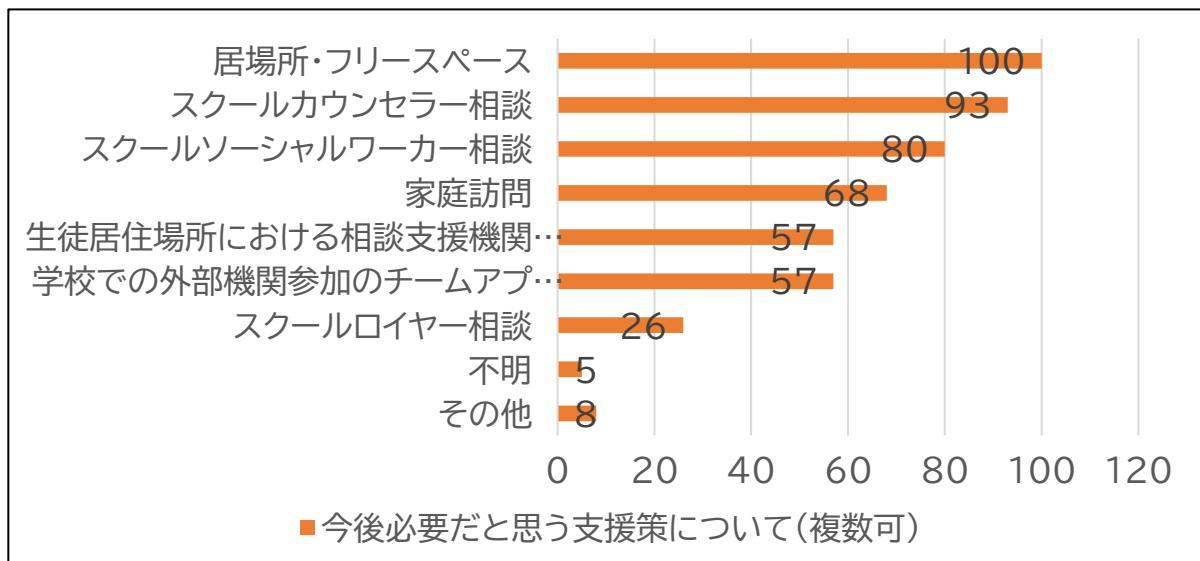
その他…

大分県教育委員会・障がい等基幹相談支援センター・星の会・親の会・児童家庭支援センター・子ども食堂・スクールソーシャルワーカーなど

◎つなげた機関としては、児童相談所・医療機関の相談が多く、自治体、教育委員会が続いてます。公的機関がほとんどで、それ以外のつなぎ機関の件数が少ないことが分かります。高校になると児童相談所・医療機関へのつなぎが多くなる傾向です。



3-6.不登校・ひきこもり支援に関して、今後必要な支援について(回答数168件)



その他…

- ・連携がとりやすい医療機関・コミュニケーションスキル研修(当事者・家族・支援者)
- ・地域での体験活動受入れ・保護者へのケア・柔軟な進路対応・障がいについての相談

◎回答者の属性にかかわらず、居場所・スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー等の外部機関の必要性が高いと答えた方が多くみられました。

逆を言えば、その機関やサービスが不足していることも考えられ、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの人数や頻度が少ないことによって、相談のタイミングがずれてしまっている状況もあるのではないかと考えられます。

中学校では、外部機関参加のチームアプローチについて低い回答数でしたが、高校になると必要性が高くなる傾向がみられました。

高校になると生徒の居住地が広範囲になることで、支援機関のアプローチとマッチングが難しくなる傾向があると考えられます。

3-7.不登校・ひきこもり支援に関する課題や悩みについて(回答数75件)

- ・家庭へのかかわり方。 ・本来業務が多忙でなかなか対応できない。
- ・相談先の情報が少ない。 ・本人家族に改善したい意欲がない。

1、家庭との協力や理解

- ・家庭の課題に対しては、一定の距離が必要であるが、家庭だけでの解決が困難なケースがある。
- ・保護者の考えを受容する必要はあるが、家庭との関係性をどう保っていくか。
- ・家庭によって、家庭の中の課題も見えてくるが、どうしたらよいのか分からず。
- ・家庭全体にアプローチが必要な場合があるが、家庭の協力を得られず、子ども自身の拒否や支援先が不明慮な状態でつながらない、一つの機関では対応ができない。
- ・学校に行くための動機づけが必要。 ・家庭の考え方の多様化がみられる。

2、時間・業務量

- ・外部との連携の仕組みがないことで、個々での対応による負担が増大している。
- ・子ども自身も情報を取得できるようになったが、正しい情報や寄り添いが難しい。
- ・予防という観点での話し合いの場が少なく、起ったことによる対策での対応になってしまふ。
- ・人材不足ということもあるが、役割が偏っている。もしくは、分かりにくく、対応までに時間がかかる。
- ・家庭の支援には、外部機関の力も必要と感じているが、情報がないので調べる時間がかかる。

3、学業・本人

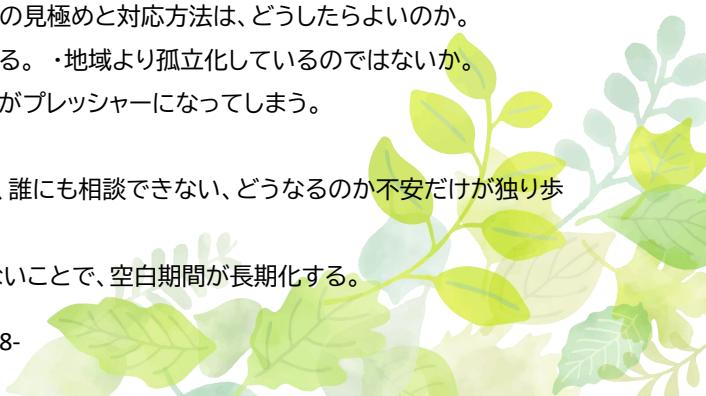
- ・子ども自身が抱えている場合があるが、選択肢が少ない。
- ・人間関係を形成する場所は必要であるが、フォローワー体制が整っていない。
- ・本人の気持ちを表現できる場所や環境、発信の方法があるとよい。 ・交友関係は大切である。
- ・子ども自身が無気力である場合の対応の難しさがある。
- ・日常生活に支障がある障がいとフォローがあれば対応できる障がいへの配慮は必要。

4、情報について

- ・対応が途切れてしまい、振り返りするところがない。そのまで終わってしまう。
- ・相談先がどんな機能があるのかわからない。そこまで連絡をして良いのか。
- ・医療機関が必要な場合の判断先や医療機関について情報不足。
- ・ケースがすすむにつれ、情報を整理する検討の時間は必要。

5、方法がわからない(専門性含む)

- ・対応が一貫していないことで、子どもたちにも迷いが生じる。 ・専門職と話す機会が少ない。
- ・専門性が必要なデリケートな場面への関わり方や対応方法をしりたい。
- ・全体を調整する役割と役割分担が必要。 ・発達特性の見極めと対応方法は、どうしたらよいのか。
- ・いじめ問題、不登校問題、家庭問題等が複雑化している。 ・地域より孤立化しているのではないか。
- ・小さなスモールステップを目標にできず、大きな目標がプレッシャーになってしまふ。
- ・支援者自身のメンタル面の負担がある。
- ・支援が途切れてしまうことで、誰からも認められない、誰にも相談できない、どうなるのか不安だけが独り歩きしてしまう。
- ・特定の機関だけであったり、本人が求める機関ではないことで、空白期間が長期化する。



3-8.外部機関へ期待すること(回答数41件)

- ・相談するにあたった、判断基準が欲しい。
- ・本人が安心できる居場所が欲しい。
- ・専門性を持った方々との相談体制を確立してほしい。

1、情報・周知

- ・判断材料になりやすい情報ツールが必要である。
- ・情報媒体の活用が必要。
- ・情報が多すぎることや判断基準がわかりにくく、紹介できにくい。
- ・相談機関への相談方法、相談経過を教えてほしい。
- ・お互いの顔が見える関係のあつまる場の情報交換会の開催。

2、多様な居場所

- ・本人自身が選択できる。安心できる場所の確保。
- ・学校だけではない社会性を培う場所が必要。
- ・居場所の考え方の整理が必要。
- ・居場所が安心できる場所でもあり、経験ができる場所、つながる場所となる。
- ・世代によって物事の捉え方は違うが、世代間の考え方が柔軟に活かされる場所。

3、多分野の情報交換の仕組みとつながりの拡大

- ・適切な情報共有と連携システムの構築が必要。
- ・それぞれの立場や守るべきものを理解することで、調整と役割分担による連携。
- ・相談先との接点が少なく、つながるタイミングがズレると難しい。
- ・学校社会と地域社会が一概に同じとは言えず、知る機会を増やす必要。
- ・学校に向けての専門職のアプローチ方法を検討してほしい。
- ・障がいが疑われる場合の連携について、段階に応じた対応が必要。
- ・成人年齢直前もしくは成人年齢に達するが、相談が必要な場合の受け入れ。
- ・ハイリスクがある家庭問題の対応は、支援のための情報が必要である。
- ・個人情報保護の配慮と支援への情報開示の仕組み。
- ・顔が見える関係性づくりは必要。
- ・子どもの支援が途切れない方法が必要であり、行政、地域が枠組みを超える必要がある。
- ・専門職が対応できやすい環境は必要。人員不足もある。

4.今後の取組み

進学や就職等の節目、関係機関と支援のつながりが途切れやすい時期に、途切ってしまったつながり。社会とのつながり再構築には、時間をかけなければなりません。

様々な選択肢があってもいい。

そんな地域であってほしい。

地域に自分を認めてくれる居場所がある。

本人たちが自分で選択することに尊厳を持ち、その時々にある選択肢が寄り添う社会を目指す先には、多様性がある地域がつくられます。

本調査を通して、以下のことが
若年者及びその家庭へのサポートとして必要であると整理しました。

- ①学校から地域へのリファー(他の社会資源や専門家に繋げていくこと)先を明示することで、進路検討の前段階で各家庭・生徒に対して適切な情報提供が図られること
- ②教育現場も含めた各機関の組織レベル・管理職レベル・現場担当者レベルで顔の見える関係性による支援ネットワーク構築がなされていくこと
- ③成功を共に喜び、失敗を経験として受け入れ、何度でも相談できる居場所の情報を広げていくこと

上記を踏まえた具体的な取組みとして、関係機関や情報リストの整理、
学校現場と支援機関連携の仕組みづくりを今後の若者応援ネットワークの活動としています。



5.連携事例

【①】この事例では、多様な機関が、経験出来る場と相談出来る場としてつながることで、第3の選択肢を自身で見つけることができ、本人の歩みが再スタートしました。

対象者：16歳 高校中退

連携機関：学校・中津市こども支援課・キャリアサポート・社会福祉協議会

県外の高校に入学し入寮したが、慣れない寮生活から、不登校となり、休学することになりました。休学後、家族のもとに帰省し、進路を検討しましたが、学校には戻りたくない気持ちが強くなる一方でした。

高校の先生も心配して連絡をくれましたが、入学直後で関係性も出来ていない状態であり、学校との関係は薄れていく一方で、外に出る意欲もなくなる状態でした。

当時は家庭としても不安定な状況があり、子どもたちも両親の支えになりたい気持ちを強く持っており、外との繋がりよりも、自分たちで解決しなければならない気持ちの方が強かったように感じます。

その中で、社会福祉協議会としては、世帯全体の課題を整理する事を始め、少しづつ生活は改善傾向となりましたが、子ども自身が社会との距離を制限している状態が続き、どこにもつながらない状態が続いてました。学校との関係は、中津市を通じて話を進めてきました。

「何が楽しいか？何ができるか？」本人とやり取りをするなかで「分からない、見えてこない」というという発言がありました。本人としては、この生活が当たり前であり、それを続けることを義務として感じていたような状況でした。

本人に楽しみを持ってもらう目的で、キャリアサポートの活動を紹介しました。本人が楽しいと思えること、社会を知る経験が少しづつ増えていくことで、進学だけではなく、仕事をするという選択肢も出てきました。本人が、一人の人として千択(選択)できる道につながった時でした。

現在、本人は就業中です。



【②】卒業の早い段階でに学校から相談支援機関である社会福祉協議会につないで
いただいたことで、本人と保護者と受け入れ施設と学校の関係がうまくいった事例です。

対象者：18歳 高校生

連携機関：高等学校・社会福祉協議会・福祉施設

11月、高等学校の先生より社会福祉協議会に相談がありました。

「卒業を控えた生徒で就職活動がうまくいっていない生徒がいる。このまま卒業してしまうと、仕事も決まらず、社会に出るきっかけをつかめず、家に引きこもってしまう可能性が高い。少しでも社会とのつながりをつくって送り出したいので、本人が参加できる場所や活動などないだろうか」という相談内容でした。

相談を受けた社会福祉協議会は、参加できそうな場所を考えました。移動手段が自転車であること、慣れない人とのコミュニケーションがなかなか難しいことから、自転車で行ける範囲で、少人数で本人を見守りながら受け入れてくれるところを探しました。

結果、本人が住む小学校区内にある小規模の福祉施設が候補として挙がり、社会福祉協議会が施設長に事情を説明に行きました。

どのような形で受け入れるのが良いのか、頻度や時間帯など、施設の事情も加味した上で受け入れていただく方向となり、本人には冬休み中のボランティア活動として提案しました。ボランティア活動が定着し、卒業後も施設に来られるようになった段階で、アルバイトとしての雇用についても施設側に打診しました。

学校から本人・保護者に説明してもらい、冬休みに何度かボランティア活動をすることができ、その後も卒業までに何度か施設で活動しました。

卒業後、毎日ではありませんが定期的に福祉施設に通うようになり、徐々に入所している方や職員の方ともコミュニケーションが取れるようになりました。

コミュニケーション以外に、作業として掃除や洗い物などもやっていましたが、湯呑を4～5個洗うのに30分かかる、手すりを拭くにかなりの時間を要するが多く、最初のうちはアルバイトとしての雇用は難しいというのが施設側の見解でした。

受入先の施設長が、本人と直接話す機会を設けながら、本人への関わりを工夫していただいた結果、徐々に本人も作業に慣れてきました。その様子を見て、「いつまでもボランティアとしては申し訳ない。いくらかでも払ってあげてほしい」と職員の皆さんから施設長に直談判してきたそうです。その後アルバイトとして、働きました。

6. まとめ

ひきこもりの支援にあたり、進学、卒業のタイミングで社会とのつながりがなくなり、そのままひきこもり状態に至ったケースがしばしば見受けられます。ひきこもりの状態は長期間になればなるほど、改善が難しくなるため、早期の発見と対応が重要となります。

しかし、不登校やひきこもり状態の方への支援は、統一的なマニュアルがあるわけではなく、また、長期にわたる関りが必要とされるケースがほとんどです。相談を受けた人だけで対応し続けることは困難ですし、学校現場だけ、福祉現場だけでは状況が改善しないケースも多々あります。

本アンケートでも、「日常業務が忙しく不登校の子どもや家庭に十分にかかわることが難しい。」といった声がありました。また、「家庭の中の問題には立ち入れない。」「個人情報になるので外部機関との連携が難しい。」といった声もありました。相談を受けた先生や学校だけで対応することに苦慮しつつも、他機関との連携にも躊躇されている状況が推察されます。

複雑なケースや時間をするケースは、公的、民間を問わず、様々な機関が連携しなければ対応が困難です。令和3年4月に社会福祉法が改正されて始まった「重層的支援体制整備事業」では、支援をする機関(子ども、高齢者、障がい者、生活困窮等)の間の連携の確立とともに、連携を通じて支援に携わる人を支援すること(支援者支援)も重要な視点となっています。

—参照文書—

・重層的支援体制整備事業と教育施策との連携について(令和3年3月29日2教参字第26号
文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課、地域学習推進課、児童生徒課通知)

・重層的支援体制整備事業と教育施策との連携について
(令和3年3月29日社援 地発0329第15号厚生労働省社会・援護局地域福祉課長通知)

「かいと」では

そうだん 相談



生活や仕事のこと…電話、訪問など状況に応じて対応します。

ハローワークや医療機関等、必要に応じて関係機関へお繋ぎします。

いばしょ

居場所

就労につながるための、一步手前の就労の練習や訓練の機会を提供します。

家族交流会を通じてご家族の支援も行います。



じょうほうはっしん

情報発信

ひきこもり当事者やご家族が、相談窓口や支援に役立つ情報を必要な時に適切に得ることができるよう、支援機関から積極的に情報発信を行います。

家族支援

- ◎思いを話せる場として定期的に交流会を実施しています。
- ◎情報提供や必要に応じて関係機関につなぎます。
- ◎相談に応じて訪問します。

本人支援

- ◎電話相談・訪問相談
(生活の困りごと・就労相談・人間関係等)
- ◎お仕事の支援
(ハローワーク同行・企業見学・お仕事体験)
- ◎相談に応じて訪問します。

「かいと」

「かいと」の意味
自由に、大空をはばたいて
ほしいと思いを込めて…



相談窓口

中津市社会福祉協議会

☎ 0979-26-1237

場所：中津市教育福祉

センター内

はたら 働く あなたの明日を サポート。😊

「働く」ことの
イメージが持てない

働いて
自立したい！

コミュニケーション
に自信がない…

「働く」にまつわる
いろんなことを
サポート！

NPO法人キャリアサポートは、次世代を担う子ども若者に対し、社会性を身につけ、個性と能力を発揮でき、かつ行政や企業、関係機関と連携し自立するための切れ目のない支援を行い、若者と地域をつなぐ『のりしろ』のような存在になりたいと考えています。

社会人へのステップアップセミナー（年5回）

キャリア教育（自己理解・職業理解等のグループワーク、職業人講話、職場見学、体験等）
社会人としての一般常識（ビジネスマナー、電話応対、パソコンスキル等）
ソーシャルスキルトレーニング（対人スキル、自己コントロール、生活習慣等）



社会的体験会（年5回）

文化活動（美術館、図書館、フラワーアレンジメント、調理、スイーツ作り、コンサート等）
野外活動（サイクリング、八面山登山、スケート、アクアパーク、沢歩き等）
余暇活動（映画館、ボーリング、温泉等）



職業アセスメント（要予約）

【職業レディネステスト】あなたがどんなことに興味がありまた自信があるのか？グラフで表示され分かりやすい検査です

【GATB（厚生労働省編一般職業適性検査）】9つの適性能を測る検査です。試筆検査と器具検査があります。

どんな仕事に向いているか？なりたい職業に必要な能力は？などがわかります。

【TTAP（自閉症スペクトラム移行アセスメントプロフィール検査）】発達障害かも？と思ったらこの検査。あなたの傾向がわかります

【MWS（幕張版ワークサンプル検査）】OA作業、事務作業、実務作業に大別された14種類の職業体験ができ、あなたの得意不得意がわかります。

【エゴグラム】心理学者バーンの交流分析という理論に基づいた性格診断。あなたの行動の傾向やその理由がわかります。

ミニ職場体験（要予約）

幕張版ワークサンプルで、トレーニングを行います。

NPO法人キャリアサポートは、若者のキャリア形成を応援します！



独立行政法人福祉医療機構(WAM)



イラスト:小袋 奈緒(おぶくろ なお)
1999年生まれ。大分県在住のフリーイラストレーター
九州産業大学造形短期大学部卒
通信制高校での美術講師もしてます
お仕事募集中!
趣味はお絵描き、料理

令和7年3月
【編集・発行】
社会福祉法人 中津市社会福祉協議会
特定非営利活動法人 キャリアサポート
【協力団体】
中津市
中津市教育委員会
お悩みコンシェルジュEndne
【お問い合わせ先】
大分県中津市沖代町1丁目1番11号
中津市教育福祉センター内 中津市社会福祉協議会
TEL0979-23-2095



この報告書は、WAM(独立行政法人福祉医療機構)の助成を受け作成しました
『なかつ子ども若者応援ネットワーク構築準備事業』
中津市 不登校・ひきこもり支援 実態調査報告書